

いざなみ

No.154
2007年6月

「ながさきおはなしフェスティバルin いさはや」

2,200名の参加を得て、盛会のうちに終了

4月21日(土)、諫早市の諫早文化会館を会場として「ながさきおはなしフェスティバルin いさはや」を開催しました。

この大会は、「子ども読書の日」を記念して、読書を通して子どもたちの健やかな成長を願うとともに読書活動の推進を図ることを目的として、県内を巡回して開催しています。



(中学生による読み語り)



(谷川 俊太郎氏の講演)

午前中は、「おはなしの部屋」を5会場で開催しましたが、地元の小・中・高校生や大学生、ボランティアによる絵本の読み語りや人形劇、ストーリーテリングなどに多くの子どもたちが目を輝かせて、楽しそうに聞き入る姿が印象的でした。

午後は、ギタリストの山口 修さん、歌手の山口 純子さんによる「星になった あかねちゃん」のお話と演奏に引き続き、詩人で、絵本作家である谷川俊太郎さんを迎えて、二羽 史裕さんの司会で「日本語で遊ぶ」をテーマにお話していただきました。

谷川さんは、「絵本を活字で読むことに併せて、声に出して読むことが大切だ。今みたいに情報が大量で、活字文化に浸たされているとどうしても言葉を頭で捉え、頭で解釈し、体ぐるみで捉えられなくなる。日本語には音韻や間の取り方など言葉に潜む身体性がある。言葉は体と結びついているものだと意識することは結構大事だと思っている。」と語られました。

このフェスティバルは、来年度も会場を移して開催いたします。皆さんのご参加をお待ちしております。

もくじ

- ◎ ながさきおはなしフェスティバル in いさはや P 1
- ◎ 長崎県立図書館在り方懇話会「答申」 P 2
- ◎ 統計で見る公共図書館1 (市町立図書館の現状) P 3
- ◎ 新規収集資料の紹介 (携帯小説)・文学に描かれたふるさと P 4
- ◎ 団体紹介 びーちゃんくらぶ、図書館紹介 西有家図書館 P 5
- ◎ 県立図書館利用の“A B C”・行事案内 P 6



で



長崎県立図書館在り方懇話会の「答申」を横田県教育長に提出

「長崎県立図書館の今後の在り方について」の「答申」が、平成19年3月14日西懇話会会長から横田県教育長に提出されたので、その概要をお知らせします。

県立 現状 ・課題

【現 状】

- ・蔵書冊数 737,667冊(全国21位)
- ・個人貸出冊数 525,555冊(全国12位)
- ・資料相談・案内件数 38,523件(全国 6位)
- ・協力貸出冊数 26,884冊(全国10位)
- ・専任職員数 22人(全国41位)
- ・うち司書有資格者数 3人(全国45位)
- ・延床面積 4,952m²(全国42位)

【取り巻く状況】

- 施設の狭隘化・老朽化
- 長崎市立図書館(仮称)の建設
- 長崎歴史文化博物館の開館と資料移管

【市町村図書館の活動状況】

- ・蔵書数 全国30位
- ・専任職員数 全国44位
- ・貸出冊数 全国30位
- ・図書館未設置地域の存在(4町)
- ・ホームページ開設率41% (全国69%)

【課 題】

- 市町村図書館活動への支援
 - ・市町村図書館からの要望への対応
 - ・経営相談や研修の充実
 - ・図書館未設置地域や離島への支援
- 県民読書活動の推進
 - ・読書活動推進の啓発
- 子ども読書活動の推進
 - ・資料の充実と推進組織の整備
- 課題解決機能の充実
 - ・資料の収集(一般資料・地域資料・行政資料など)
 - ・情報センター機能の充実
- 施設・設備・職員等
 - ・開架・保存書庫・駐車場の不足
 - ・専任職員・司書有資格者の不足

提 言

これからの郷土を拓く新県立図書館

【県立図書館が担うべき役割・機能】

- ◆市町村図書館支援の充実
- ◆県立図書館としてふさわしい来館者への直接サービスの充実
- ◆県下の図書館関係職員の研修体制の充実
- ◆県内の電子情報ネットワークの拠点としての機能整備
- ◆学校図書館への支援活動の充実

担うべき役割・機能
を実現するために

【資料収集】

- 県民へのサービス・市町村支援のため、豊富な資料を網羅的に収集する。(年間発行書籍のおよそ5割を購入する。)
- 市町村で購入困難な資料(専門書など)を収集する。
- 行政資料、本県と関連深い産業の資料、中国・韓国・オランダ関係の資料などを充実させる。
- 紙媒体と電子情報資源を組み合わせたハイブリッドな図書館を目指す。

【ネットワーク構築】

- 県内外の図書館とのネットワーク機能を強化し、資料提供のシステムの充実を図る。
- 情報ネットワークの拠点として電子情報網を整備・拡充する。

【職員配置等】

- 経験豊富で有能な職員を配置し、市町村や学校図書館職員の研修体制を充実する。
- 専門職としての司書職採用制度を導入する。

【運営形態】

- 部分的に民間の長所を取り入れながら管理運営主体は県直営を行う。
- 外部評価を導入し、PDCAのサイクルが確立する体制を構築する。

【施設・組織】

- 30~35万点の開架書庫、150万点の保存書庫、一定規模の駐車場に必要なスペースを確保するため、適地へ移転する。
- 高齢者をはじめ人に優しい施設設備など多様な空間を設置する。
- 電子情報部門、学校支援部門、職員研修部門、郷土資料部門、子ども読書部門などの専門的部署を新設・拡充する。

目指す県立図書館像

- 全ての県民へのサービス提供(公共図書館利用者が県民の5割以上)を保障する図書館。
- 行政関係やビジネス支援関係など様々な課題解決のための情報を提供する図書館。
- 歴史・文学・産業・経済・観光・行政文書など長崎県についてのあらゆる情報を将来にわたって保存・発信する図書館。
- 図書館関係職員の研修拠点としての図書館。
- 長崎県のあらゆる産業の振興を支援する図書館。
- 子どもの読書活動を推進し、「ココロねっこ運動」を支援する図書館。
- 県民が各種情報へ容易にアクセスできる図書館。

統計で見る公共図書館（1）

市町立図書館の現状

県内の市町立図書館の現状を見てみると、最近になり市町立図書館の開館が増加したことや市町村合併効果とも相まって、図書館設置率は大幅に改善して来ています。

また、市町立図書館の運営指標となる蔵書数、利用者数(登録率)、貸出冊数は、10年前までは全国最下位近くを低迷していましたが、最近は少ない職員数でありながらも、全国平均に近づいています。

しかしながら、市町村合併から顕在化してきている公共団体の財源不足による予算や人件費の削減・抑制は、資料費の大幅な削減や職員のパート・嘱託化など図書館職員の専門性の確保が問題となってきております。

また、市町別貸出冊数(表2)の統計からは、上位に掲載される市町は、全国順位でもトップクラスに入る活発な活動が展開されていますが、停滞している市町も少なくない現状が見て取れます。

なお、平成16年度の県内の市町立図書館のホームページ開設率は、41%（全国69%）となっております。

○蔵書、貸出冊数等の増加の様子（平成17年度と7年度の比較）

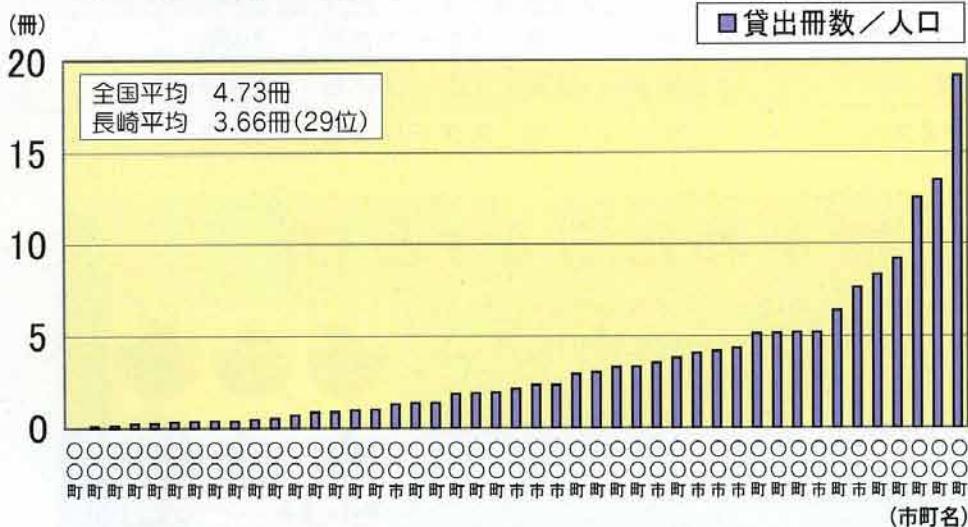
(表1)

年 度	市町 村数	図書館 設置数	図書館 設置率		蔵書数 (百人あたり)		利用者 登録率		貸出冊数 (1人あたり)		専任職員数 (1万人あたり)	
		計	市	町村	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国
平成17年度	23	31館	92%	60%	266冊	32位	34.3%	24位	3.66冊	29位	0.7人	44位
平成 7年度	79	25館	88%	20%	111冊	47位	12.9%	36位	1.21冊	45位	0.6人	47位

「日本の図書館」統計と名簿より

○貸出冊数の格差の様子（平成17年度実績）

(表2)



○ 資料費減額の様子(表3)

区分	館数(%)	
(1) 増額した館	3館(14%)	
(2) 現状維持の館	4館(18%)	
(3) 減額した館	15館(68%)	
内 数	10%以内	2館(13%)
	25%以内	6館(40%)
	50%以内	4館(27%)
	50%以上	3館(20%)

○ 資料費の様子（県内市町立図書館の合計額・順位）

(表4)

年 度	資 料 費	全 国 順 位
平成 18 年度	255,330 千円	32 位
平成 17 年度	284,880 千円	30 位

※ 場内公共図書館調査から(平成19年度予算)

※ 資料費とは書籍・新聞・雑誌等の購入費

～活字離れ世代に人気の本『携帯小説』～

—新規収集資料の紹介—

近年、様々なメディアの普及により活字媒体、つまり本の販売・利用(読書)が低迷し、「活字離れ」という現象が起こっています。

特に、10~20代の若い世代の活字離れがもつとも顕著と言えます。そんな「活字離れ」が進んでいる中で、若い世代を中心に支持されてきた小説が「携帯小説」です。携帯小説と聞いて、持ち運びが簡単な小説つまり文庫や新書のようなものをイメージしがちですが、すこし違うようです。

携帯小説とは、携帯電話のインターネットサイトなどに掲載されている電子小説のことです。いつでもどこででも読むことができ、ページ数も手頃で読みやすいという利便性から若者の利用が増えています。

また、一部の携帯小説は、書籍化されベストセラーとなっているものもあります。この書籍の特徴は、一般的に書籍が縦書きであるのに対して横書きであるということです。

書籍の出版部数が減る一方で、「携帯小説」は大きな躍進を遂げています。「携帯小説」は、携帯電話の普及した現代における産物なのかもしれません。県立図書館にも書籍化された携帯小説を数多く所蔵しております。一度ご覧になってはいかがでしょうか。



「恋空」上 美嘉 2006 スターツ出版

携帯小説【県立長崎図書館所蔵資料から】

書名	著者	出版社	発行年	貸出件数
Deep Love 完全版	Y o s h i	スターツ出版	2003	91
もっと、生きたい	Y o s h i	スターツ出版	2004	64
天使がくれたもの	C h a c o	スターツ出版	2005	21
君がくれたもの	C h a c o	スターツ出版	2006	10
恋空(上・下)	美嘉	スターツ出版	2006	41
純愛	稻森 遥華	スターツ出版	2007	6
クリアナス	十和	スターツ出版	2007	3

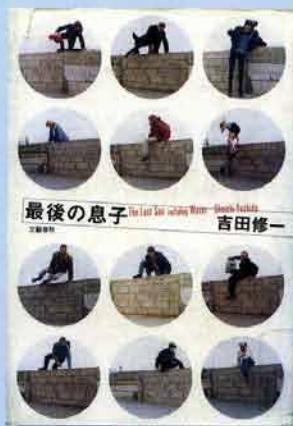


文学に描かれたふるさと〈3〉

「『兄ちゃんは運動部か?』おじいさんはベンチで煙草を吸っていた。『水泳部です』『水泳か……おっちゃんたちの頃は、鼠島で練しめて泳ぎよったけど、今はもう泳げんらしかなあ。海も汚れて……』話しかけられたことが妙に嬉しくて、隣に座り込んだのだが、おじいさんはちょっとだけ迷惑そうな顔をして尻をざらした。それでもボクは興味なさそうに『へえ』『ふーん』と相槌を打つだけのおじいさん相手に、自分が県立高水泳部のキャプテンで、専門がフリー、今年になって何秒記録が伸びたか教えてやった。」([Water]吉田修一著 2002年 文藝春秋刊「最後の息子」に併録)

平成14年に「パーク・ライフ」で芥川賞を受賞した吉田修一の、初期の青春小説です。長崎の高校の水泳部を舞台に、男子高校生の日常を描きます。気のかけない仲間達との会話、進路のこと、家族のこと、淡い恋心、全国大会出場をかけた県大会での波瀾万丈…。

作者自身が長崎での高校時代水泳部員であり、ライバル校がほぼ実名で登場します。「稻佐山」「中央橋」「中島川」などもそのまま使われ、登場人物たちの長崎弁ももちろん自然なものです。



平成19年度 子どもの読書活動優秀実践

文部科学大臣表彰館・団体紹介

「子どもたちの瞳の輝きに魅せられて」

佐々町立図書館 ぴーちゃんくらぶ

私達の会は、絵本の読み語りを始めたお母さん達の情報交換や研修のために(株)ほるぷの営業所内に「幼児と文学研究所佐世保支部」として発足しました。20余年前のことです。

その後「まついのりこ」先生との懇親会で名称を「ぴーちゃんくらぶ」に変えました。幼かったお嬢さんと描いた絵本の可愛いおばけの名前です。月一回の定例会を重ねながら、子どもの本に関する講座や講演会に出かけ伝え合ってきました。今では当時の幼な子たちも成人しましたが、会員はますます絵本を楽しんでいます。

殆ど佐世保市在住の会員ですが、それぞれ地元の学校へ読み語りを続けている上に、保育所、幼稚園、学童クラブなど、依頼を受けてどこにでも出向いています。佐世保市のブックスタートも手伝っています。10年以上も学校の朝読を続けている人もいます。

佐々町立図書館が開館し、私たちが出来ることで共に「よか図書館づくり」に役立てばと読み語りや図書の整理、イベントの協力など楽しくやってきました。私共で担当している幼児向けのお話会(第2・4木曜)は、毎回多くの親子づれで賑わいます。

40~60代まで14名の会員。職種もさまざま。いろんな特技や豊かなアイディア、器用さが活動に活かされています。今回の子ども読書活動実践において文部科学大臣の表彰に戸惑いながらも更に学び合って、この活動を続けて楽しんでいきたいと思っています。



「子どもたちの顔が見える図書館をめざして」

西有家図書館(南島原市)

私たちは、子どもたちに遊びながら楽しんで本に親しんでほしいと考え、「どくしょ日記」や「図書館探検隊」、子どもたちによるおはなし会「ありんこのす」などを行っています。

クイズに答えたり、子どもたち同士で読み語りをしたり、司書と会話したり……読み語りが決して特別なものではなく、子どもたちが遊びながら自然に本に親しめるよう工夫しています。また、子どもたちの体験できる場を大切にしたいと考え、毎月の「工作ランド」や夏休みには「お料理教室」や「1日図書館員」、「かがくあそび」などを行っています。

一見読み語りとは関係なさそうなことですが、手や身体を動かしたり、一つのことをやり遂げた満足感を味わうことによって、子どもたちの心を豊かにし、本を読んだとき、より深く感じることができるのではないかと思います。

私たちの仕事はカウンター業務も大切ですが、フロア業務の中で読み語りを日常的なものにしたいと思っています。子どもたちに「これ読んで」といわれたら必ず読むようにし、子どもが来たら「この本知つとる?」とか「この本おもしろかよ!」と声をかけながら読み語りをすることを心がけています。

これからも、子どもたちの心の成長に関わっていける図書館をめざし、図書館を支えてくださるたくさんの方々と力を合わせて、努力していきたいと思います。



県立図書館利用の“ABC”

平成19年3月から 県立長崎図書館の資料がインターネットで予約ができるようになりました。

ご家庭のパソコンからインターネットを利用し、本館所蔵資料の予約ができるようになりました。
予約申込には、本館が発行するパスワードが必要です。本館カウンターまでお申し込みください。

利用できる方

・県立長崎図書館の利用者登録及びパスワード登録をしている方

・直接来館のうえ資料(本)の借受・返却ができる方

※ 返却期間が過ぎて資料(本)を返却されていない方は、予約できない場合があります。

予約できる資料

・県立図書館が所蔵している資料で**貸出中**のもの（郷土資料、禁帯出資料、雑誌の最新号を除く）

※ 資料によっては受け付けできない場合がありますので、インターネットで申込後、「予約状況照会画面」でご確認ください。

予約できる冊数

・お一人 20冊まで

その他の

・パスワード登録されている方は、御自分が現在借りている資料(本)や予約している資料冊数や書名を自宅(パソコン)で確認が可能となります。

・本のリクエストや他館資料の取り寄せについては、カウンターでご相談ください。

行事案内(7月～10月)

第1回 県立長崎図書館協議会(会場:県立長崎図書館 研修室)

日 時： 平成19年9月3日(月) 13:30～16:30

内 容： 県立長崎図書館の運営に関する協議等

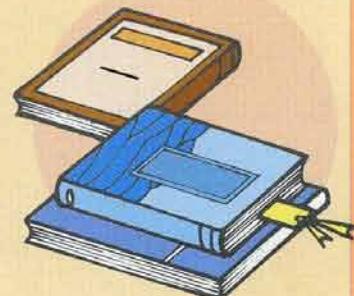
平成19年度 第2回 図書館講座(会場:県立長崎図書館 講堂)

日 時： 平成19年9月8日(土) 13:30～15:30

内 容： 対談「長崎の詩と詩人たち」～北原白秋、伊東静雄、山田かんを中心に～

講 師：活水女子大学教授 田中 俊廣 氏

詩 人 高塚かず子 氏



平成19年度 図書館実務研修会(島原、佐世保地区の図書館で開催予定)

日 時： 第1回 平成19年 9月10日(月) 10:30～17:00

第2回 平成19年10月15日(月) 10:30～17:00

主 催： 県立長崎図書館・長崎県公共図書館等協議会

内 容： 「選書」に関する講演・実習、図書館見学

